

中国空軍ニュース：中国空軍の空中給油機が増加

漢和防務評論 20180306(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国空軍は、本格的な空中給油機を多数必要としており、新型国産輸送機 Y-20 を空中給油機に改装する計画があるようですが、とりあえず現在の不足分を補うため、中古の IL-76 を購入し空中給油機に改装し、数の不足を補おうとしています。

従来の H-6 爆撃機の改装型は給油能力が低く、実戦では搭載燃料の多い J-16 や SU-30MKK には使えないようです。

KDR パリ特電：東欧の軍事工業界の権威筋は **KDR** に対し次のように述べた：IL-78 空中給油機の最後の 1 機を中国空軍に提供した。同型機の提供はこれで終了した、と。簡単に述べると、IL-78 は元々空中給油専用機ではなく、IL-76TD 型輸送機の内部に燃料タンクを取付け、同機の主翼の下方 2 ヶ所に空中給油管を取付けた機体である。

消息筋は：中国空軍は、この改装機を主として SU-30MKK/MK2 の空中給油に使用する、と述べた。

また消息筋は：中国空軍は現在多くの空中給油機を必要としている。主要な問題点は、程度の良い IL-76 を探すことであり、中古機なので大きな改修作業になると述べた。

現在、中国空軍の空中給油の現状を見ると、H-6U (H-6 爆撃機の空中給油型) は、主として燃料消費の少ない J-10 シリーズの戦闘機に給油し、SU-30 シリーズ戦闘機の空中給油は改装した IL-76 を使用するようだ。しかも中国空軍は、空中給油ができる J-16 多用途戦闘機のバッチ生産を開始したので、今後空中給油機の数が増える必要になる。

現在、IL-78 の機数は少なく、数の上で不十分であると **KDR** は考える。次の段階は、中国国産の Y-20 新型輸送機を空中給油機に改装する可能性が極めて高いと **KDR** は考える。

空中給油を実施すると、J-16、SU-30MKK の航続距離は 2 倍になり、滞空時間も大幅に増加する。こうなると、台湾東岸及び南シナ海全体への脅威が増すことになる。空中給油機への改装の最後の段階に試験飛行が行われるが、この過程に中国空軍が参加している。

以上